

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
225	経済学演習 (船木由喜彦)	通年	3年以上：4単位	船木 由喜彦 政政・経演・国演

副題
Subtitle

ゲーム理論と実験経済学

授業概要
Course Description

この演習では「ゲーム理論」の基礎を修得すること、また、「経済学実験」を実施・分析する基礎能力を修得すること目標とします。さらに、それに関連する経済学・政治学諸分野の問題を研究します。例えば環境問題、情報の経済学、産業組織論、公共財供給問題などがそれらの研究テーマの一例となります。

ゲーム理論では、互いに依存関係のある状況における、個人の合理的な意思決定や行動を研究します。実験経済学では、ゲーム理論や経済学の理論のとおりになんが行動するのか、もし、そうでないとすると、それはなぜかという問題を研究します。

ゼミでは2年間かけて、自分の定めた研究テーマの卒業論文を作成し、それを卒業発表会で報告します。3年次では、このための基礎研究をします。まずは、担当教員の推薦するゲーム理論あるいは実験経済学の平易なテキストまたは資料を輪読することから始める予定です。その際、実際にゼミの皆さんに参加していただき、人々の行動選択の実験を実施し、実験経済学をより理解していただく予定です。卒業論文のテーマとしては上記のほか、実際に実験を実施した研究、国際政治経済的な研究、スポーツのゲーム理論分析、制度の比較研究、混雑の解消の問題など内容は多岐にわたりますが、そのほとんどがゲーム理論に関連した研究です。その中には論文コンクールにおいて優秀賞を受賞したものもあります。なお、卒業論文の内容は卒論発表会にて報告しますが、0Bや2年生の参加もあります。例年、1 - 2割の学生が大学院に進学します。

なお、3年修了時にはその年に学んだことを求めたレポートを作成していただきます。

授業の到達目標
Objectives

ゲーム理論の基礎知識の確実な修得、経済学実験実施・分析能力の修得、さらにそれらを踏まえた応用力の養成。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：自己紹介、テキスト選定
- 第2回 - 第20回：テキスト輪読、経済学実験実習
- 第21回 - 第24回：卒論テーマ設定（議論と面接）
- 第25回 - 第26回：卒論研究に向けての報告と議論、3年次レポートの作成
- 第27回 - 第28回：4年生の卒論に対する討論、3年次レポートの作成
- 第29回：卒論発表会（4年生）と討論会
- 第30回：今後研究計画の報告、3年次レポートの提出

教科書
Textbook(s)

担当教員の配付する資料またはテキストを用いる。

参考文献
Reference Book(s)

- 船木由喜彦『ゲーム理論講義』（新世社・近刊）
- 中山、武藤、船木編著『ゲーム理論で解く』（有斐閣）
- 武藤滋夫『ゲーム理論入門』（日経文庫）
- 佐々木宏夫『入門ゲーム理論』（日本評論社）
- 梶井厚志『戦略的思考の技術』（中公新書）
- 船木由喜彦『演習ゲーム理論』（新世社）
- 岡田 章『ゲーム理論・入門』（有斐閣アルマ）
- 河野、西條編『社会科学の実験アプローチ』（勁草書房）
- 川越敏司『行動ゲーム理論入門』（NTT出版）
- フリードマン・サンダー『実験経済学の原理と方法』（川越ほか訳・同文社）

評価方法 Evaluation		割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
	試験 Examination(s)	%	
	レポート Report(s)	20 %	3年次終了レポート
	平常点評価 Class Participation	80 %	報告、レジュメ、議論、出席。
	その他 Other	%	

備 考
Note

学生に対する要望：「受講希望学生に対する掲示」を良く読んでください。

関連URL
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/funaki/wasyoko.html>